



哲多中学校だより

新見市立哲多中学校

令和5年11月24日

文責 校長

道徳の研究授業より・・・

今年度、本校では、道徳の重点目標を『自分や友達の生き方について考える時間であると実感する授業づくりを進める。』とし、授業実践を行っています。

また、具体的な手立てとして次の2つを挙げています。

○全学年で、自分ごととして主体的に考え、議論する道徳授業の充実を進め、道徳的な実践力を高める。

○論語について親しませることで論語教育の充実を図る。

上記の目標を実践していくために22日(水)に2年生と3年生で道徳の研究授業を行いました。今回は、3年生の内容を紹介したいと思います。

題材：深めたいむ（違いについて）

本時のめあて：『あってはならない違い』をなくすために大切な考え方について考えよう。

- 1 大人はお酒を飲むことを認められているが、高校生は認められていない。
- 2 A君は肌の色が黒いが、B君は白い。
- 3 C君は怖い先生の言うことはよく聞かすが、怖くない先生の言うことは聞かない。
- 4 D君はニンジンが嫌いだが、Eさんは好き嫌いが無い。
- 5 Fレストランは、スーツを着ている人は入れるが、シャツとジーンズでは入れない。
- 6 卓球部では、上級生は掃除をしないが、下級生はいつも掃除をしなければならない。
- 7 Gさんは自由にどこへでも旅行ができるが、車いすを使っているHさんは一人で電車に乗ることができない。
- 8 日本の平均寿命は、84.2歳だがシラレオネの平均寿命は53.1歳である。
- 9 両親は、妹には食事の片づけをするよう言いつけるが、兄には何も言わない。

生徒たちは、左下の1から9の内容について、まず『あってよい違い』と『あってはならない違い』について各個人で考えた後、グループでそれぞれの意見を共有し、『あってよい違い』と『あってはならない違い』にはどんな違いがあるのかを考えました。最後にその『違い』をなくすためにはどうすればよいかを考えて、文章にまとめました。



<生徒の感想より>

- ・これからの社会には、一人一人の個性を尊重しあい、お互いに受け入れることが大切だと思いました。
- ・互いの個性を尊重しあい生活すれば差別も減るのではないかと思った。相手のことを理解することが大切だと思った。
- ・生きていくうえで不平等だなど思うことがたくさんあって、そういうところを直してほしいし、直したいなと思いました。
- ・生きていくうえで、人が人のことを否定しあっていくのではなく、理解して受け入れあうことが大切ということが分かった。
- ・偏見や差別をなくすには、人それぞれの個性を大切に、相手を知ることが大切だと思いました。
- ・平等な世界を作るには、相手のことをよく知る必要なんだと思いました。
- ・人を見た目などで差別をするのではなく内面まで見て、お互いが支えあって生活していきたいです。
- ・人には『あってよい違い』と『あってはならない違い』があるが、それが無くなるためには、平等に接し、一人一人の意見を大切にしていけることが必要である。